

ポルタリス『民法典序論』研究の手引き

慶應義塾大学名誉教授・弁護士 金山 直樹

コロナ休み(?)を利用して、ここ一〇年来、取り組んできたポルタリスの『民法典序論』の翻訳と解説の完成に向けて、鋭意作業を進めている。フランス民法典は、フランス革命前の「旧法」と、革命期に制定された「新法」を取捨選択した上で制定されている。『序論』は、その取捨選択の弁明書としての性格を有している。それゆえ、『序論』を理解しようと思えば、旧法と新法に関する知識は不可欠である。

では、何を読むべきか。この点で最高の手引きをしてくれるのが、次のものである。

- ① Profession d'avocat, 2^e partie, contenant une Bibliothèque choisie des livres de droit qu'il est le plus utile d'acquérir et de connaître, par M. Camus, 5^e éd., revue et augmentée par Dupin Aîné, t. 2, Paris, 1832

筆者はこのベルギー版(1833年)の復刻版(1976年)を持っている。これによって、旧法であれ、新法であれ、はたまた民法典に関する初期の著作であれ、ほぼ網羅的に文献をフォローすることができる。

以下において、そこで紹介されている文献を中心に、筆者が使ってみて有益であったものを幾つかピックアップしてみよう。文献は、(1)事典、(2)法令集、(3)教科書・概説書に分類することができる。だが、紙幅の関係から、今回は、(1)について説明するに留めたい。

(1) 事典

- ② Claude-Joseph de FERRIERE, Dictionnaire de droit et de pratique, contenant l'explication des termes de droit, d'ordonnances, de coutumes & de pratique, 2 vols, Paris, nouv. éd., 1769
- ③ Ch H. DAGAR, Le nouveau Ferrière, ou Dictionnaire de droit et de pratique, civil, commercial, criminel et judiciaire, 3 vols., Paris, an XIII, 1805
- ④ Louis RONDONNEAU, Vocabulaire classique de la science du droit, contenant la définition et l'explication de tous les termes de droit public, de législation, de procédure et de jurisprudence..., suivi d'une notice chronologique des lois, décrets et ordonnances, depuis 1789 jusqu'à 1823, Paris, 1823
- ⑤ [Guillaume-Jean] FAVARD DE LANGLADE, Répertoire de la nouvelle législation civile commerciale et administrative ou analyse raisonnée des principes consacrés par le code civil le code de commerce et le code de procédure, 4 vols, Paris, 1823-1824

②は旧法時代の代表的な法学事典である。③はその新版で、各項目について、旧法、新法、民法典に分けて、法制度の概要を叙述しており、法の変遷を辿る際には極めて便利である。④は民法の用語に関するハンディーな辞書だが、巻末に、革命期の代表的な法律を年代順に列挙するとともに、法学入門者を念頭に図書案内が付されている点で有益である。⑤は、③と同趣旨の事典であるが、その焦点は新法以降の法律にある。